



# I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ mapps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.10 2022.11.30 今回のテーマ | 分類・項目設定

## 今回の内容とスケジュールについてのお知らせ

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。早いもので、このリニューアル情報EXPRESSの発行も、今回で2ケタ到達です。また、第1号発行の約3か月前に400館を突破した総ユーザ数も、いよいよ500館到達が秒読み段階に。皆様のご愛顧に改めてお礼を申し上げます。

さて、この1年近くにわたり、お問い合わせをいただいた館を中心に多数のユーザ様と対話を重ねてきました。その中では、「画面が大きく変わる」ことに対するご不安の声もいただいております。すでにご紹介いたしました通り、このニュースターをはじめとする事前の情報提供のほか、移行までに3か月の「練習期間」をご用意し、さらに地域で時差を設けることで可能な限り手厚いサポートをお届けする段階的な導入を予定しております。あくまで現状の予定ではありますが、そのアウトラインにつきましては前号でお知らせした通りです。

これも重ねてお伝えしておりますが、リニューアル画面の設計と同様に、弊社ではすべてのユーザ様が安心してご移行いただけることを重視しております。これは日程の面でも同様で、特に前号のQ&A号でいただいた新たなお声なども加味し、より安全に安全を期す形で余裕を持たせたスケジュールを検証中です。場合によっては、弊社の予定を再度変更してでも最善を尽くすよう、現在、さらなる議論を続けております。詳細が決定次第、改めて告知いたしますので、しばしお待ちください。

さて、こうした安全重視の姿勢は、画面リニューアルそのものの「2段階実施」でも同様です。第1陣は日常的に利用する画面を中心とし、システム設定部分など相対的に使用頻度が低く操作に慎重を要する機能については第2陣で実施する方法も検討しています。これは、まず新インターフェイスに慣れていただき、その後に設定関連画面などを追加実装することで、実際に操作いただく皆様のご負担を抑えられることを目的としたものです。

## I.B.MUSEUM SaaSリニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/7/15	人物・名簿とメディア
Vol.7	2022/8/31	資料利用
Vol.8	2022/9/30	公開設定
Vol.9	2022/10/31	リニューアルQ&Aとここまでのまとめ (公開設定までを振り返り)
Vol.10	2022/11/30	分類・項目設定 <b>Now!</b>
Vol.11	2022/12/31	ユーザ管理・一括処理
Vol.12	2023/1/31	帳票設定
Vol.13	2023/2/28	移行方法と並行運用について
Vol.14	2023/3/31	総集編 (Vol.1からVol.13までを1冊に)

この第2陣の候補となるのが、今回ご紹介する分類・項目設定機能です。システム全体の中でも特に操作が難しい部分のひとつですので、第1陣・第2陣のさらに後の実装を検討していた部分まで一部取り込む形で、インターフェイスを大幅に見直し。実際のお披露目は少し先となる可能性もございますが、現状の開発画面をご紹介します。

細部で変更が生じる可能性もありますが、今回のリニューアルの焦点のひとつ。じっくりとご覧ください。

## リニューアルのコンセプト

**ダッシュボードを設置し、設定とレイアウトを分離。  
作業をわかりやすく、チェック漏れを防止。**

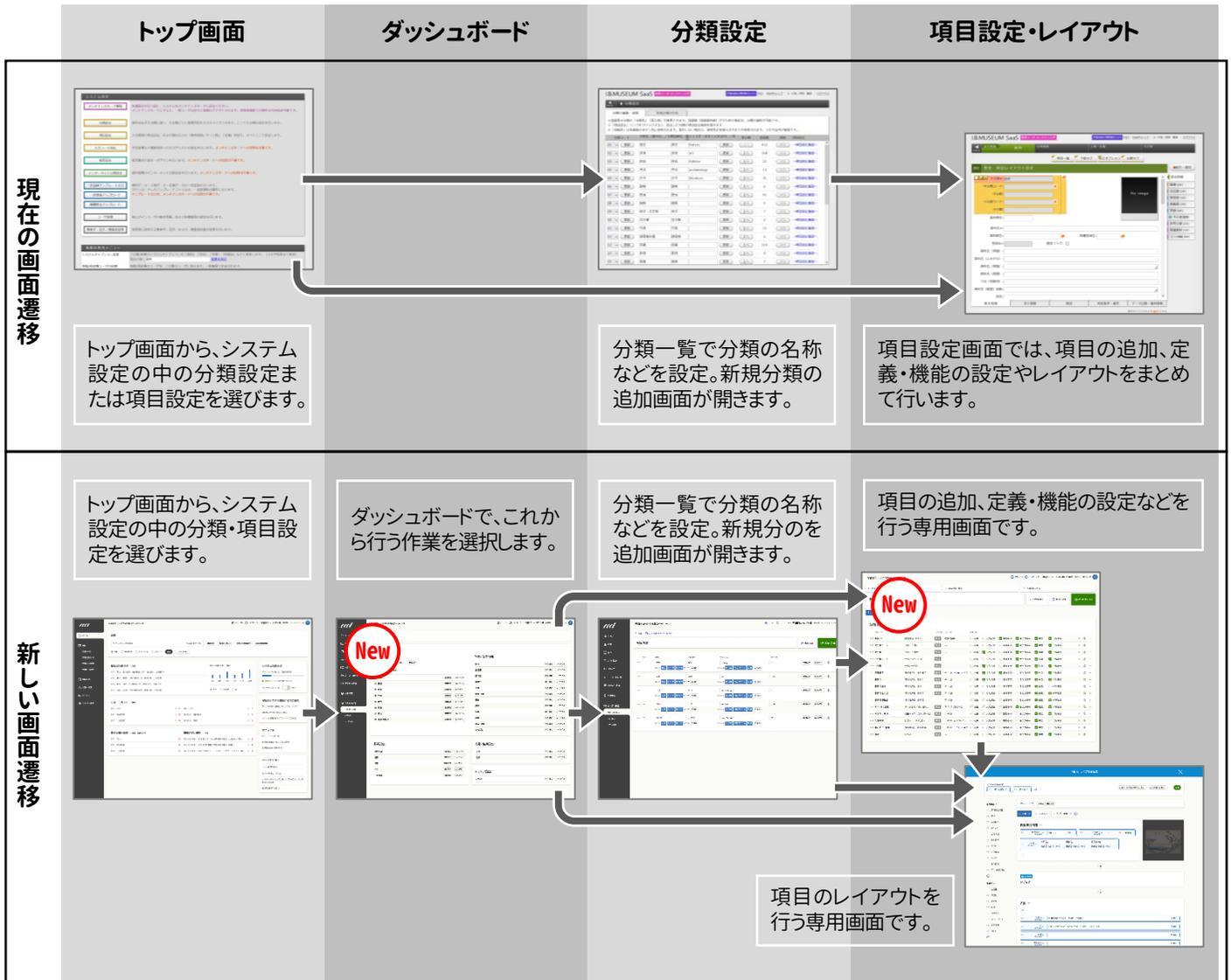
館によって扱う資料が大きく異なる博物館は、管理する分類や項目の設定・運用にそれぞれ独自の規定を有しています。一方、ひとつのシステムを共用するのが前提となるクラウド型のサービスでは、原則として個別のカスタマイズを依頼することができません。そこで、I.B.MUSEUM SaaS では、個別システムの豊富な開発経験から館の種別ごとに分類・項目を絞り込んだテンプレートを用意し、それをユーザ側で自由にアレンジできる機能を確保。実のところ、国内初の「博物館クラウド」が実現したのは、最大の障壁であったこの機能の開発成功が大きな決め手となりました。

実装にあたっては、ふだん見慣れているデータ登録画面で、

出来上りをイメージしながら設定作業を行えるよう配慮しました。マウスドラッグで項目の位置を移動できるのは、その代表例と言えます。レイアウトについては非常にシンプルで機能的なのですが、実際の運用では「その項目が持つ性質」の定義が必要です。また、多数の機能追加によって定義づけの環境が複雑化したことで、シンプルだった画面もまた当初の分かりやすさが薄れてきました。

そこで、「操作の分かりやすさ」という理念に立ち返り、項目そのものを設定する画面と、設定を終えた項目をレイアウトする画面を、それぞれ分離することとしました。

「最短距離」「簡略化」が大きなテーマのひとつとなった今回のリニューアルでは、多くの機能で画面数が減っています。この分類・項目設定では逆に微増しますが、見た目の画面数ではなく、途中で迷ったり戻ったりする可能性そのものを減らすことで、結果的により素早く作業を完了できる環境づくりを目指しました。分類の設定状態を一望でき、これから行う作業の入り口の役割を果たす「ダッシュボード」の設置。これで、作業の道のりがグッと掴みやすくなるはずです。



## 専用ダッシュボード

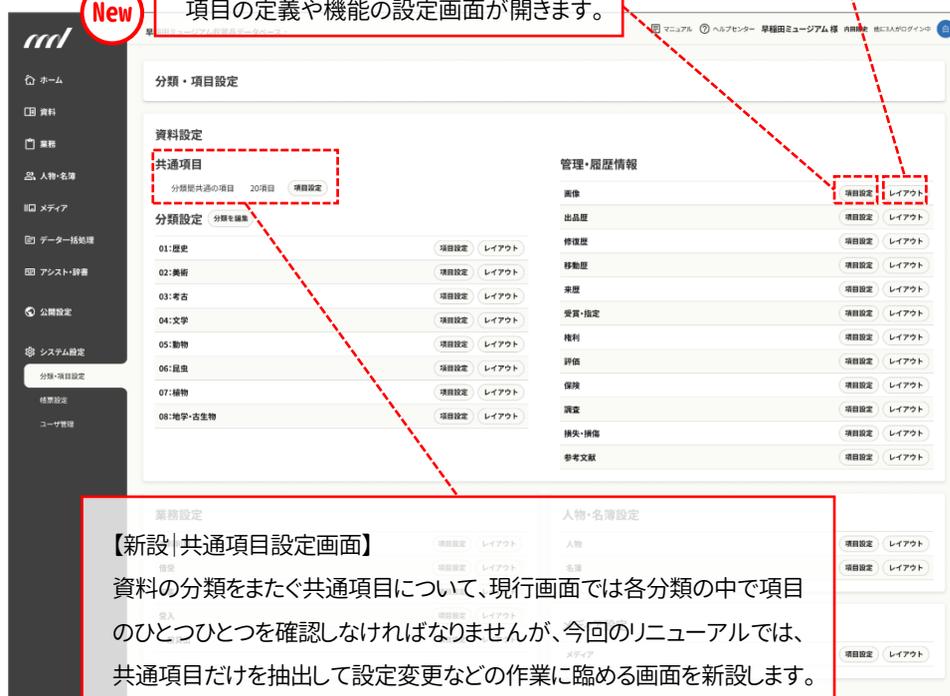
これから行う作業の入り口が明確に。

たとえば「美術分野に新たに項目を追加したい」場合、現行画面では、美術の項目設定画面に到達するためにメインメニューの項目設定を開きます。名簿の項目設定画面のナビゲーションボタンから「美術」を選択するか、分類設定画面で美術分類を選ぶことで「美術の項目設定」という目的地に辿り着きますが、途中で道標が存在しません。そのため、初めて操作する際には、マニュアルが手放せませんでした。

新設のダッシュボードは、分類や項目の設定・変更に関わる機能を総覧できる画面です。眺めるだけでなく、一覧からワンクリックで目的の操作画面に入ることができます。

項目のレイアウト画面が開きます。

項目の定義や機能の設定画面が開きます。



## 現行の項目設定画面で解消すべき課題。

現行システムの開発当時、項目設定画面の設計では「日常的に利用する画面に手を加えるような感覚で扱える」という利便性を重視しました。これは、当時は「データ項目を設定する」という作業自体が専門的に過ぎるとお感じになる方が多かったためですが、高度な検索を日常的に駆使する現在では、項目の定義などを

より丁寧に、より正確に管理することが問われるようになりました。当然、項目設定画面も複雑化したため、重要な定義の見落としや設定の漏れが発生しやすく、あとで修正を余儀なくされるケースも少なくないようです。

そこで、今回のリニューアルでは、定義を含めた項目の設定作業を、画面上のレイアウトから明確に分離。専用のシンプルな画面と単純な操作環境を確保しました。

### 現行項目設定画面の改善ポイント



現行の画面で新しい項目を追加する際は、まず「項目一覧」から項目の種類を選びますが(①)、追加を示すボタンがないため、素早く作業に入るには操作への慣れが必要でした。また「表示オプション」で項目の表示に関する機能を設定し(②)、さらに項目を選んで表示以外の定義づけを行う(③)など、一連の操作ポイントが異なる場所に配置されているため、必要な作業を見落とすことも。

## 分類設定

### 各分類の状態を、より分かりやすく。

資料の分類を設定する画面内で分類コードや名称などを設定・編集できる点は同じですが、リニューアル後の新デザインでは、この画面の中で「できること」が大きく増えます。

たとえば、その分類にどんな履歴情報が設定されているかを瞬時に読み取ることが可能。データを編集したい場合は、ここから専用の設定画面を直接開くことができます。また、「逐次刊行物」>「巻・号」など、分類間の関連付けもこの画面から確認できます。

新たな分類の作成も、画面右上の「分類を追加」ボタンをクリックすれば専用のモーダル(※2)が立ち上がります。

その分類に設定されている履歴など

その分類に設定された関連する分類

新しい分類を追加

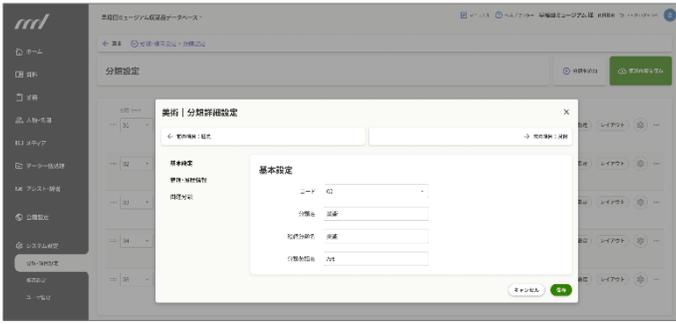
項目の定義や機能の設定画面が開きます。

項目のレイアウト画面が開きます。

この分類の詳細な設定を行います。

当該分類の複製や削除ボタンが開きます。

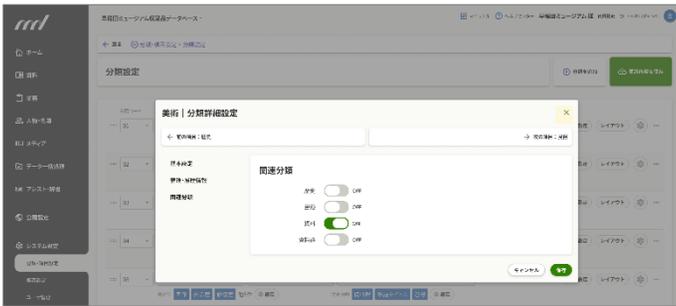
新たに設定する分類の名称などを決定・登録します。



▲ 分類の詳しい仕様・定義を設定していきます。  
 ※ 開発中の画面で、実際にはもう少し多くの要素が入ります。



▲ 画像や出品歴など、ひとつの資料に対して複数のデータが下にぶら下がるような性質を持つ情報を加えます。現行画面における「右側のタブ」と同じです。



▲ 次に、関連する分類を設定します。「下にぶら下がる性質を持つ情報」とは、たとえば「逐次刊行物」という分類に対する「巻・号」といった設定を指します。

## 項目設定

各分類の状態を、より分かりやすく。

**New**

早稲田ミュージアム収蔵品データベース

メニューヘルプセンター 早稲田ミュージアム様 内田剛史 他に3人がログイン中

戻る 分類・項目設定・美術 前の設定: 歴史 次の設定: 考古

美術

レイアウト設定 項目を追加 更新内容を保存

すべて 分類固有項目の設定 共通項目の設定

項目設定

ラベル	項目	5	6	7	8	9
資料ID	識別番号・資料ID	共通	数値・整数	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
大分類コード	分類1・分類コード	共通		秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
大分類	分類1・分類名	共通		秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
中分類コード	分類2・分類コード	共通		秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
中分類	分類2・分類名	共通		秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
登録番号	資料番号[1]-資料番号	共通	テキスト:デフォルト半角	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
資料名	資料名称[1]-資料名	共通	テキスト	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
資料名典拠	資料名称[1]-典拠	共通	テキスト	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
資料名(かな)	資料名称[3]-資料名	共通	テキスト	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
資料名(英語)	資料名称[2]-資料名	共通	テキスト	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
サイト11に公開	データ公開/権利情報・一般に公開	共通	スイッチ(名称検討)	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
リポジトリURL	自由テキスト/選択リスト型[1]-テキスト入力ボックス	共通	テキスト	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
公開解説	記述ノート[1]-記述ノート	共通	テキスト+音声ファイル	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
展示ガイド番号	資料番号[2]-資料番号	共通	テキスト:デフォルト半角	秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	
作者	制作者	共通		秘匿 入力必須 重複不可 手入力不可	検索... ソート... 一覧項目	

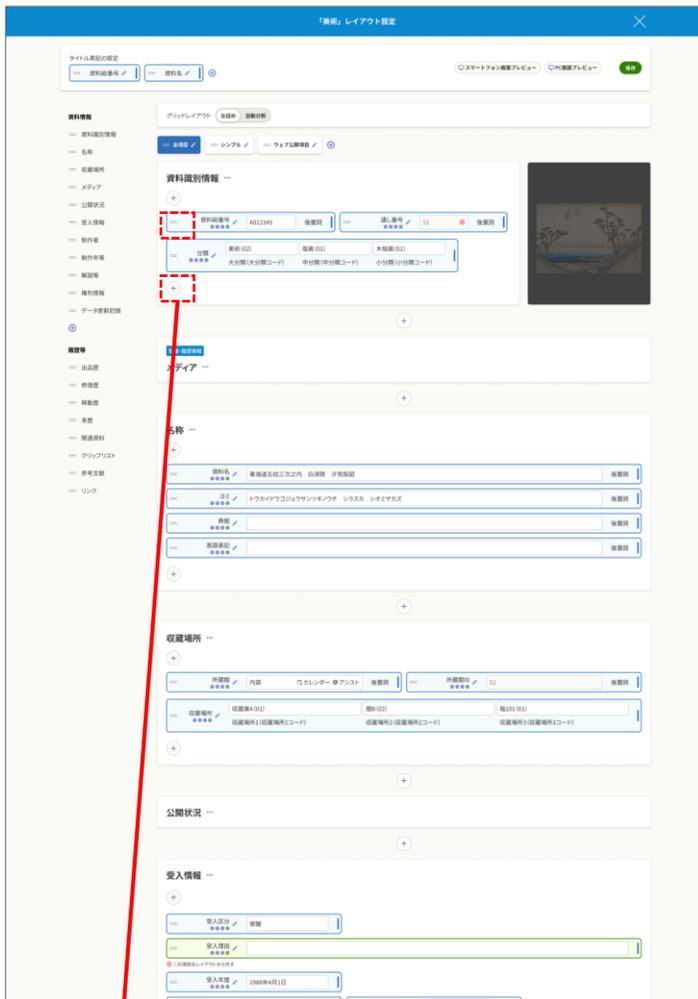
前述の通り、今回のリニューアルでは、項目設定の操作を可能な限りシンプルにするためにレイアウト画面を切り離し、専用の画面を用意します。前ページの画面における各部の役割は以下の通りです。

- ① レイアウト設定画面へ
- ② 項目を追加する画面へ
- ③ 項目ラベル(表示上の呼び方)
- ④ 項目名(実態上の項目)
- ⑤ 共通項目である旨の表示 | 他の分野と共通設定がされている場合は表示されます。
- ⑥ 入力方式
- ⑦ 設定項目 | 入力必須/秘匿/重複不可/検索項目として使用/一覧項目として使用/ソート項目として使用/出力項目として使用/ファセット(※1)として表示 | について、設定(ON/OFF)を行います。
- ⑧ 当該項目の詳細設定のモーダル(※2)が立ち上がります。↓の画面の通りです。
- ⑨ 当該項目の複製、削除ボタンが表示されます。

現行デザインでは、たとえば「分類内で秘匿と設定している項目」を確認するには、ひとつひとつの項目の定義画面を開く必要がありました。今回のリニューアルで設置される専用画面では、そうした設定状況をひと目でチェックすることが可能に。「秘匿の設定を忘れていた項目」があれば即座に見つけることができ、後で「この項目も秘匿にしたい」という場合もここから直接設定することが可能になります。

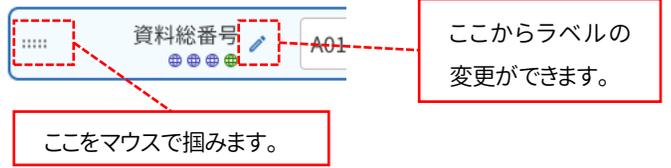
また、「共通項目となっているかどうか」については、分野をまたぐ検索の可否など他の分野にも影響するため、この画面内でひと目でわかるように専用のボタンを設け(⑤)、かつロック機能を付加しています。





## 項目レイアウト

専用画面なので、レイアウト作業に集中。

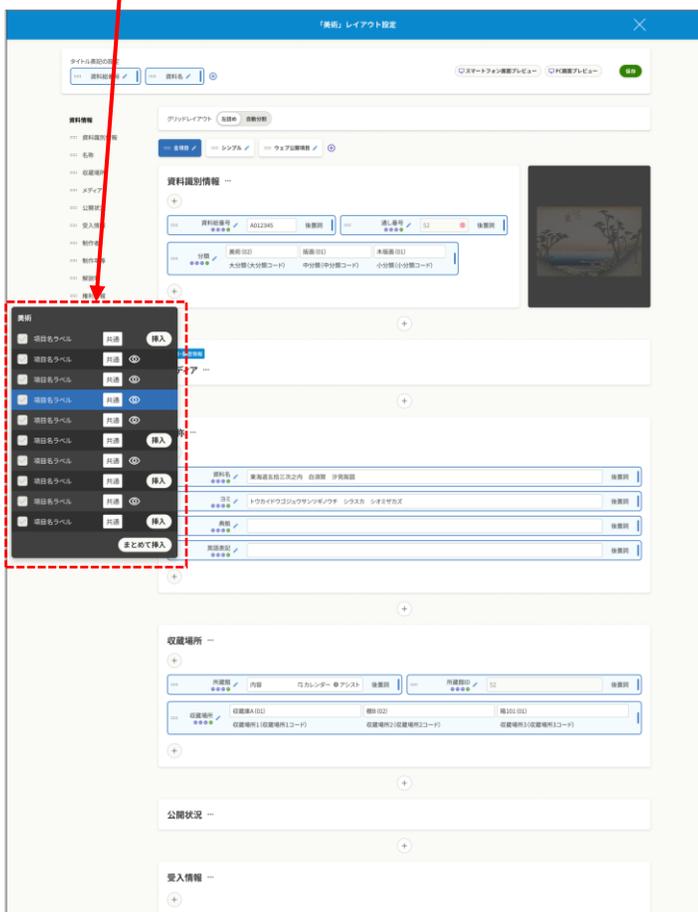


新デザインでも、現行デザインと同じように、項目の位置変更はマウスドラッグで行うことができます。上の画面の左にあるマークがマウスでドラッグする場所です。

さて、新デザインでは、設定画面とレイアウト画面を分離するとお伝えしました。これは、設定作業と同様に、レイアウトでも作業に集中できる専用画面が存在することを意味します。しかし、レイアウトしながら項目のラベル(表示上の呼び名)を変更する必要が生じることや、どんな項目をレイアウトしたかを一望して確認したいということも出てくると思われます。

そこで、ラベル名の変更と追加については、レイアウト画面内でも対応可能に。上の拡大画面の右にあるペンのマークからラベルを変更することができます。

また左上の画面で四角で囲んだ「+」マークをクリックすると、項目設定画面で定義済みの項目の一覧がモーダル(※2)で立ち上がります。通常、ポップアップしたモーダル以外の表示エリアはグレースアウトさせて作業に集中しやすくするのですが、ここでは敢えてグレースアウトさせず、レイアウト画面を見ながら確認できるよう配慮します。



※1 ファセット  
あらかじめ検索条件を用意しておき、ユーザーはそれを選ぶだけで絞り込んでいくことができる仕組みのことです。詳しくは、第4号7ページをご参照ください。

※2 モーダル  
画面の上に別のウィンドウを表示し、ユーザーに情報を伝える画面のことです。特定の操作を行わないとほかの操作ができないようになっています。

## 今回のまとめ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。ご不明な点などはございませんでしょうか。

さて、今回の画面説明の冒頭部分で少し触れましたが、この項目設定まわりの機能は、ミュージアム向けの収蔵品管理システムをクラウドサービス化するにあたって最大の障壁となった機能のひとつです。博物館の分類・項目管理は、ひとつとして同じ館がないほど多様。同一のシステムを複数のユーザで画一的に利用するクラウドサービスとは極めて相性が悪く、I.B.MUSEUM SaaS が登場する以前の十数年前には「事実上、ほぼ不可能」とされていたほどです。なぜなら、システム側が用意した縛りに館の業務を合わせることはあり得ないから。これは、もちろん現在でも同様です。

それを覆したのが、この分類・項目の設定機能です。当時、ハード・ソフトとも館で保有して運用するオンプレス版のI.B.MUSEUMで築いていた数百館分の納入実績から、館の種別ごとに「最も汎用的」と判断できるテンプレート群の開発に成功。それをもとにユーザ側で自由に修正・追加できる機能を実現したことから、夢物語だった「博物館クラウド」が一気に現実味を増したのです。

そんな経緯から、この分類・項目設定画面のリニューアルは、特に感慨深いものがあります。今回は分かりやすさと実務スピードにこだわりますので、今後も若干の調整が生じる可能性があります。これらはリリース時に改めてお伝えすることになるかと存じます。

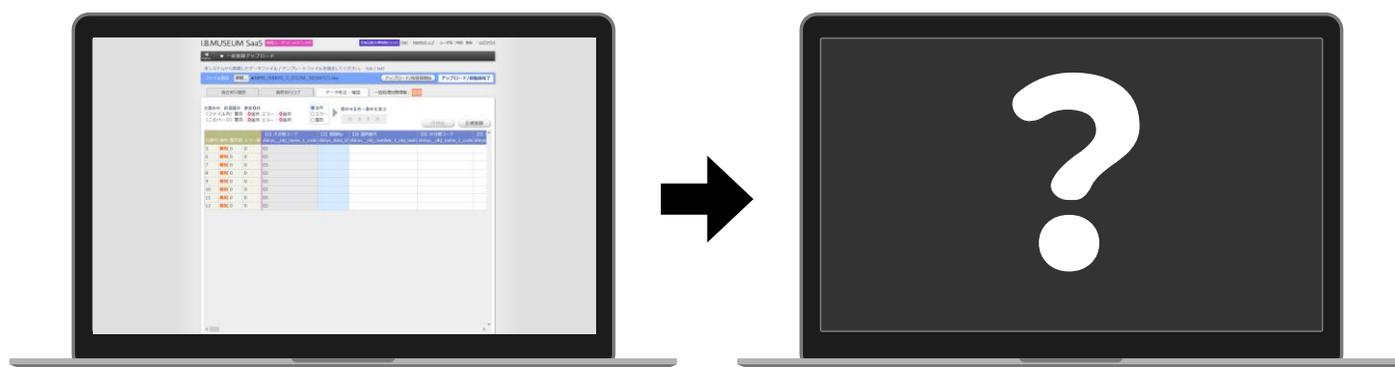
## 次号についてのお知らせ

上記の通り、今回ご紹介した分類・項目設定は、各館でご導入を検討いただく際の前提条件となるレベルで重要な機能です。とは言え、日常的に使う検索やその周辺機能に比べると、使用頻度としてはかなり低くなります。

その意味では、大量のデータをまとめて登録する一括登録機能も同様となります。長期にわたって毎日のように使用することはなくても、館によってはスピーディで快適な運用の決め手ともなり得る機能です。

こうした「重要だけど使用頻度は高くない」機能は、たまにしか使わないがゆえに、操作に慣れにくいもの。一度は慣れたとしても、時間が経つと経験値がリセットされてしまうこともあるだけに「見た瞬間にどう使えばよいか分かる」画面が想像以上に重要となるのです。

そんなわけで、次号では、今回の分類・項目設定と並んで「頻度は低くても重要な機能」となる一括登録機能をご紹介します。どうぞお楽しみに。



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。